

富士市立高等学校 学校運営協議会		第 2 1 回	会議要旨 (令和元年度)
開催日 令和 2 年 2 月 4 日 月曜日 開 会 1 8 時 3 0 分 閉 会 2 0 時 2 5 分	会議場 富士市立高等学校 2 階 会議室		
出席委員 【委員】 畑 隆 一条 聖恵 志田 好久 塩田 真吾 畑 裕美 村田 猛 村山亜希子 矢崎 進 山田 雅彦 渡邊 寛子 岩田 享 池田 将章 【オブザーバー】 宇佐美壽英 花崎 武彦 齋藤 隆裕			
開会			
○会長あいさつ ・今日は、令和元年度の学校評価という大きな議題が控えている。学校評価は、Plan, Do, Check, Action, いわゆる P D C A サイクルの中で「C」 check のプロセスに相当するものであり、富士市立高校が次の年度に向けての改善を進めるため重要なプロセスである。 ・各委員は、忌憚のない御意見をお願いしたい。			
○副会長あいさつ ・早いもので、立春、そして節分を迎え、1 年が経つの早いということを職員会議でも、生徒の朝礼でも再三再四、「歳月人を待たず。」ということで、1 日、1 日を大切にしなさいということについて話をしている。 ・本校は、学科編成して開校してから 9 年目となり、来年は節目の 1 0 年目を迎える。1 0 年目を迎えるに当たり、「富士市立高等学校改革実施計画検証のための有識者会議」を設け、既に昨年 1 2 月及びこの 1 月の 2 回開催している。協議会の委員の一部の方、そしてオブザーバーの皆さんに議論をいただいている。 ・学校では、昨年 4 月以降、本日まで大きな事件、事故もなく、無事に 3 月を迎えられそうである。 ・この 2 月から 3 年生が家庭学習に入り、学校も少し寂しくなったが、3 年生はセンター試験の結果を受け、3 0 人弱が国公立大学入試、私立大学入試に向けて教員の個別指導を受けながら、本校の 3 つのコンセプトでもある夢を叶えるドリカム・ハイスクールに向かって頑張っている。 ・昨日、本校スポーツ探究科 1 年生は、スポーツ V の授業の「野外活動」としてのスキー実習のため、清里高原に 2 泊 3 日の予定で出発した。 ・本校の生徒の中での学力の幅があり、かつ、進路も非常に多様である。専門高校の中では、県			

内の専門高校の中で100人を超える人数がセンター試験を受けている学校はまずなく、全国でも非常に珍しい学校である。

- ・ 昨年の本郷サッカー部が11月16日にエコパスタジアムにおいて決勝戦を静岡学園高校と戦い、結果は準優勝に終わったが、地元富士ニュースの報道では、2019年の富士・富士宮地区での重大ニュースの筆頭として富士市立高校の決勝進出を取り上げていただいた。静岡県東部地域のサッカーの歴史の中では、非常にインパクトがあり、市民が喜んでくれたということで、学校を改編してスポーツ探究科を新設することができて、本当によかったなと思う。
- ・ 本日の会議は、今日はPDCAサイクルのCの check の部分に当たり一番大切な部分である。各委員におかれては、PDCAのCの check をよろしく願いたい。

## 議事の概要

### ○学校からの報告

#### ◇進路決定状況

- ・ 就職は、50人の就職希望者全員が内定を得られた。(令和2年1月29日現在)
- ・ 4年制大学合格者数は、延べ82人で実人数では80人である。(令和2年1月29日現在)
- ・ 現時点での国公立大学合格者数は8人で、昨年度比+2人で、生徒も教員もよく頑張った。
- ・ 大学進学希望者で進路が未定の生徒は、残り16人で、うち国公立大学希望が5人で、私立大学の希望は11人である。
- ・ 短大希望者は、今年は県立短期大学を希望する生徒が多かったが、推薦・AO入試が厳しい状況であった。
- ・ 専門学校を希望する生徒は、AO・推薦入試で合格できなかった生徒も粘り強く努力し、一般入試で、富士市立看護専門学校、沼津市立看護専門学校及び静岡県立看護専門学校に各1人、合計3人が合格した。

#### ◇海外探究研修について

##### [総合探究科]

- ・ 総合探究科の海外探究研修は、毎年アメリカのボストンに行っており、本年度は令和元年12月1日から6日までの日程で行った。例年と違うところは、これまで空港は、羽田空港と成田空港に分かれて出発していたが、今年度は中部国際空港も使い、3か所に別れて出発した。
- ・ 主な活動としては、毎回大学訪問をしているが、今年度はハーバード大学とレスリー大学に行き、大学のキャンパス内のツアー、更に教室、ホールに入り、現地で大学院生、大学生を相手にプレゼンテーションをして、審査をして順番を決めるというような活動をしてきた。
- ・ 高校訪問については、訪問予定日の前夜から稀に見る吹雪に見舞われ、ボストン市内の高校も全て休校になってしまったため、現地の高校を訪問することはできなくなったが、吹雪の日の夜、及び次の日の夕方に現地の高校生が交通機関を利用してわざわざホテルまで来てくれるなど、感動的なシーンも見ることができた。
- ・ 当日は、急遽ボストン・レッドソックスの本拠地となっているフェンウェイパークに行き、野球場を見学した。
- ・ 雪の影響でハーバード大学のキャンパスツアーもキャンセルになり、活動が縮小されたが、生

徒及び担任の先生が柔軟に、臨機応変に動いてくれたので、キャンセルとなったプログラムの穴を埋めることができ、充実した活動ができた。

- ・総合探究課の海外探究研修に関し生徒へアンケート調査をしたところ、満足度はほぼ99%で、生徒は皆満足してくれたものと解釈している。
- ・今回も海外探究研修の旅行期間中、病気になったり、けがをしたりという生徒はおらず、無事に終了することができた。
- ・過去に海外探究研修の経験をAO入試、推薦入試の面接、小論文等で利用する生徒がいるということで、是非来年度の入試に活かしてもらいたい。

#### [ビジネス探究科]

- ・ビジネス探究科は、台北市を中心として台湾に行ってきた。天候的には少し肌寒い日が続き、1日中雨に降られてしまったりするなど、恵まれないところがあったが、生徒は大きなけがや病気などもなく、充実した研修ができたということが、一番の収穫ではないかと思う。
- ・現地の企業の見学で、企業研修として2つの会社を訪問した。1社は日系の企業、台湾森永という会社で、この会社は早い段階から台湾に工場を進出してきていた企業で、その会社で講話を聴くことができた。もう1社は現地の優良企業ということで、現地の一番大きなケーブルテレビの会社で、この会社で台湾のメディアの話聴き、台湾のテレビ局の内容を見学した。
- ・学校交流としては、泰北高級中学という高校と1日交流した。午前中は2時間授業を受け、学校交流などを行ったほか、午後は6時間ぐらい夕食を含めて泰北高級中学の生徒と一緒に台北市内研修をした。
- ・かつては、本校の生徒も研修先ではアウェイ状態で、なかなかコミュニケーションをとれなかったが、ここ数年の生徒の様子を見てみると、積極的に話しかけている。
- ・マーケティング研修は、ビジネス探究科の授業とタイアップしながら行っている活動で、現地のスーパーマーケットやコンビニエンスストアなどを見学した。
- ・ビジネス探究科は、1年生の時から日本航空とキャリア教育と協力して、研修を行ってきている。マーケティング研修の一環として日本航空のホスピタリティ等を実際に体験し、2月下旬にプレゼンテーションをすることを計画している。
- ・班別研修は、生徒の自主性に任せて台北市内を研修した。
- ・ビジネス探究科の生徒へのアンケートの結果は、生徒の高い満足度を示している。

#### [スポーツ探究科]

- ・スポーツ探究科の海外探究研修は、オーストラリアのゴールドコーストに行っている。
- ・研修内容は、主に現地の学校と交流し、スポーツ交流をすることである。
- ・研修の前半では、トレジャー・アイランドといういろんな宿泊者と触れ合いながら、スポーツが楽しめる施設で、自然に人が集まってきて、バスケットボールをやったり、テニスをやったり、さまざまな交流を深める活動をしてきた。
- ・グリフィス大学は、多くのオリンピック選手が出身となっているスポーツが盛んな大学で、講義と水球、水泳のレクチャーを受け、それから今年はローウイングを行った。
- ・オーストラリア・フットボールのクラブチームとサーフクラブという2つのクラブに行って、

オーストラリア・フットボールのクリニックを受けたり、サーフクラブではライフセービングやボディボードを行ったりした。

- ・オーストラリアで一番人気のあるスポーツは水泳で、海に面しているで、幼いころから水に慣れるようにどこの学校にもプールがあり、主にそうした水の活動を行った。
- ・今年で、研修地をオーストラリアに変更してから3年目となる。現地にコーディネーターがいるため、宿泊地や研修内容は少しずつ変えながらやっており、いい方向に変化してやれていると思う。
- ・12月はオーストラリアでは学校が夏休みに入っているため、授業中に参加することができない。しかし、子どもとの交流は要望として出しているため、夏休み中に部活動単位、ゼミ単位等、一定の単位で生徒を学校に呼んでもらい、交流をしている。
- ・スポーツ探究科の海外探究研修についての生徒へのアンケートの結果では、全体としては99%の満足度ということで高い数値となっている。
- ・オーストラリアを研修地としてから今年で3年目になる。かつて、研修地はドイツ・オランダであったが、ヨーロッパでテロが発生したこともあり、オーストラリアに変更した。オーストラリアは、日本との時差が1時間で、気候も非常にいいので研修地として非常に活動しやすい場所だが、スポーツの深さ、深みに触れる、歴史に触れるということであると、ドイツ・オランダの方がよい。どこかで研修地をヨーロッパに戻すことも、検討の余地がある。

#### ◇部活動の主な実績について

- ・全国大会に出場した陸上部5人の生徒、チアリーダー部、国民体育大会の静岡県代表として選出され、優勝の原動力となったサッカー部の勝又君、これらの生徒は、昨年の12月に富士市教育長から表彰していただいた。また、サッカー部の勝又君は全国優勝ということで市長表敬訪問を行い、小長井富士市長から激励の言葉をいただいた。
- ・全国高校サッカー選手権静岡県大会でサッカー部が準優勝ということで、富士市を挙げて応援していただいた。
- ・運動部に限らず、文化部も熱心に活動しているので、引き続きの御支援をお願いしたい。
- ・今年度から部活動ガイドラインを定め、その運用を開始している。全国大会出場を目指して頑張っている部活動が多いが、練習時間と休日のバランス、それから学習と部活動が両立できるように部の活動内容も考えながら、引き続き活動を進めてほしいと思っている。

#### 学校からの報告について意見交換

(質問・意見等)

- ・ 具体的な進路の決め方がよく分からない。最初に企業の方が市立高校に来訪し、それから市立高校の生徒と面談などを行い、それで決めていくというようなプロセスとなるのか？具体的なプロセスについて説明してほしい。

(回答)

- ・ 就職に関しての手続きは、
  - ① 生徒は、学校を通して就職を希望する会社とやり取りする。学校に求人票を持ってくる会社もあれば、郵送で学校に送付してくる会社もあるが、キャリア支援課の方で一覧を作り、生徒はそれを見て求人票を確認する。
  - ② 生徒は、求人票の中から第三希望まで決め、それをキャリア支援課に提出し、

	<p>生徒同士で志願が重複する場合は、出欠席の状況などを校内で勘案して、受験者を選考する。</p> <p>③ 校内選考を通った生徒は、自分の経験や志望理由をもとに、教員の指導を受けながら履歴書を作成する。</p> <p>という形になっている。</p> <p>今年度は、金融機関や近隣の製造業の会社から多数の求人をいただいたので、生徒はかなり自分の希望する会社、イメージするような仕事に希望を出し、内定をいただいている。</p>
--	---

## ○学校評価について

### ◇生徒、保護者、教職員アンケートの結果について

- ・ 1月9日から15日までの期間で、全校生徒、保護者、そして教員、それぞれにアンケートを実施した。質問の項目数などが、それぞれ異なるが、4段階評価をしてもらい、その評価を集計した。質問項目については、昨年度と同様で、過年度比較をした数値も掲載した。
- ・ 生徒へのアンケートの結果では、昨年と比較して少しポイントが下がったものは、質問番号1番「週に5日以上、家で勉強している。」、4番の「友人関係に満足している。」、9番「検定や資格取得にチャレンジできることに満足している。」、11番「自分の将来に対する夢や希望をもっている。」の4項目である。一方、質問番号2番「学校の教育内容に満足している。」、3番の「学校行事に満足している。」という項目は昨年度よりも上昇している。
- ・ 質問番号13番の1年生のみに対する質問でサテライト学習についての質問は、数値自体は若干上昇した。サテライト学習とは、土曜日に行っている学習形態である。
- ・ 資料の満足度については、回答中「かなり当てはまる」、「まあ当てはまる」と回答した生徒が満足した生徒であると判断し、これらの項目を選択した生徒数の全生徒数に対する割合を満足度として算出している。
- ・ 質問番号1番の「週に5日以上、家で勉強している。」は学年ごとにも集計しているが、全校生徒で満足度は55.5%、各学年を比較すると、1年生が昨年度よりも低く54.9%、2年生が69.5%、3年生が41.7%となっている。1年生の学習実態については課題として捉える必要があり、職員会議でも問題提起している。3年生については、入試、就職等がほぼ終了した1月に「週に5日勉強しているかどうか」という質問は、少し時期を失しているためか割合は低くなってしまった。
- ・ 質問番号3番の「学校行事に満足している。」という項目は、満足度91.9%と、大変高い満足度となった。
- ・ 質問番号8番の「学校で勉強した内容をもっと詳しく知りたいと思う。」という質問に対する割合が48.4%と50%を割っているが、課題である。探究を謳っている富士市立高校なので、かなり授業の中でも、そして探究活動の中でも、深い学習を求めていく姿勢を育てていかなければならない。
- ・ 質問番号13番のサテライト学習については、昨年度満足度が27%ということで、この学校運営協議会で指摘を受けているが、今年度も35.3%で、1年部で内容を検討し、工夫を加

えたが、評価はあまり高くなかった。

- ・保護者へのアンケートは、生徒を通じて保護者にアンケート用紙を配付し、回答を得られた人数が、572人だった。16項目の質問があるが、同様に4段階で評価をしてもらい、平均が3.0以上になった項目が16項目中13項目あったので、高い評価であると考えている。
- ・質問番号1番の「本校の学習指導により生徒の学力は向上している。」についての評価結果は、74.1%の満足度で、学年別に見ると、3年生の保護者は84.5%が満足していて、実際に進路実現に向けて、教員の指導、生徒の学力の向上を実感していただいていると考えている。
- ・質問番号2番から8番までの質問に対する満足度は、非常に高い割合を示しており、大変ありがたく感じている。
- ・教職員に対するアンケートは、質問項目が40項目もあり、来年度少し質問の項目数を絞っていかうと考えている。
- ・学級経営に対する質問は、担任の意識が高く表れていると思う。
- ・最後の質問で、「週3日以上午後8時以降残留することはない。」ということで、働き方改革を進める上で、少し意識を持ってもらいたいということで、質問項目として昨年度から加えたが、やはり担任の先生方が夜遅くまで残っている傾向があり、担任と副担任との仕事のバランスの均衡が課題である。

#### ◇学校自己評価について

(資料をもとに、アンケート結果及び評価について説明)

#### 学校からの報告について意見交換

(質問・意見等)	・学校でのアンケート結果で「学校行事に満足している」、「本校での人間関係に満足している」、「困ったときに頼れる仲間がいる」という質問に対して、最高値の4の評価をしている生徒が30%の後半から40%もあり、反対に最低評価の1の評価をしている生徒がほとんどおらず、驚異的な結果である。先生方の実践がそのまま数字に表れている、とてもすばらしい数字だと思う。
(質問・意見等)	・1年生から2年生、更に3年生となってくると、だんだん学校生活に慣れてくるので、アンケートでは若干評価が落ちてくるのが普通だが、市立高校のアンケートでは落ちておらず、しかも、3年生になると、例えば、進路指導、学習指導に係る質問では、3年生の数値が最高値を示している。学校として本当に誇ってよい成果ではないかと思う。
(質問・意見等)	・保護者へのアンケートで、「本校の生徒指導は、適切に行われている」、「本校の学習指導は、適切に行われている」、「部活指導は、適切に行われている」などの質問に対する結果では90%近くの満足度となっている。保護者は学校での子どもの状況を見ていないので、家庭での子どもとの会話の様子から保護者も満足をしているということで、とてもすばらしい結果だと思う。
(質問・意見等)	・中学校の校長は、富士市立高校が先進的な活動をいろいろしていることをあまり知っておらず、企業や大学とよく連携をしていること、市役所とのつながりも非常に強いこと、地元のまちづくりとのつながりも強いこと、近隣の中学校を市立

<p>(質問・意見等)</p>	<p>高校に招いていること、また反対に市立高校の生徒が中学校に行つて勉強を教えていること、財務局の職員を招聘して授業で話をしてもらっていること、などオンラインの教育をしていることをあまり知らない。富士市の小学校・中学校が一番大事にしている「どう学ぶか」について、多様な学びが用意されている、いろいろな学びができる、自分の学びに合わない場合もあるかも知れないが、いろいろな学びを経験できる、という意味では、市立高校は本当にすばらしいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新高校開設以来9年間の積み重ねで学校のコンセプトが、年々明確になってきていて、それが認知されていると思うが、やはり広報の面に力を入れる必要があり、何か違う形でのアプローチがないかなと思う。</li> </ul>
<p>(質問・意見等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の自己評価に関しては、概ねこの内容でいいのではないかと考えている。</li> </ul>
<p>(質問・意見等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒へのアンケートで「週に5日以上家で勉強している」の中には、塾での勉強時間も含まれているのか？要するに学校外で勉強している時間についての回答ということでしょうか？</li> </ul>
<p>(回答)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通塾している生徒がどれくらい存在するのか、という点は不明だが、塾に行つて勉強をしている時間数も含まれている。</li> </ul>
<p>(質問・意見等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塾に行つて勉強をしている時間数も含まれての家庭での勉強時間の数値であれば、勉強している数値としては低いと思う。開校以来9年経過したので、家庭での学習の習慣化ということも次の10年間を見据えていくと、大きな課題になると思う。</li> </ul>
<p>(質問・意見等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談に関する評価がC評価となっているが、これは全体としてみればどうしても低くなってしまふというのは当然で、1年生から教育相談、学校に困つたことや悩み事を相談できる人がいる、という生徒が90%以上いるという成果目標だが、どうしても1年生の時には、当然人間関係があるので、全体としてみれば低くなってしまふことは仕方がない。評価自体はこれでいいと思うが、今後の目標の方を、例えば「3年時に90%以上」など、縛りをかけてもいいかなと思う。</li> </ul>
<p>(質問・意見等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「検証と大学入学者選抜改革に向けた準備」も、「検証報告書の検討及び今後の方向性と具体的取組についての検討」等、なかなかA評価にしづらい部分だとは思ふが、私はA評価に近いB評価ではないかなと思う。評価としてはこれでよいと思うが、非常によく頑張っているのではないかなということをつ言する。</li> </ul>
<p>(質問・意見等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自転車安全指導カード 年間50件以内」という成果目標に対する学校の自己評価がB評価となっているが、これを昨年度の評価と比較すると、昨年度は「年間100件以内」という目標で、結果は57件ということでA評価であった。今年度は、目標値の100件以内を50件以内に引き上げた上で、結果は34件である。数字から見るとA評価としていいのではないか。</li> </ul>
<p>(回答)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今は年度の途中で34件なので、まだ期間は少し残っている。もしかしたら3月末までだと50件ぐらいまで行つてしまふかも知れない。また、本校生徒の交通マナーに対する市民からの苦情が多く、もう少し苦情を少なくできればよかつた</li> </ul>

<p>(質問・意見等)</p>	<p>という反省がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民からの苦情は、地域の住民からすれば、学校とつながっているという意味合いで苦情を申し立てる。市立高校のことが気に入らないから苦情を言っているわけではない。そういう点では、ありがたいと思えばよいわけで、それを減らしていこうというよりは、それを詳しく聞いて次に活かすというふうにした方がいいと思う。意識を改革してみてはどうか？</li> </ul>
<p>(質問・意見等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「平均2時間以上の家庭学習を行う生徒」という成果目標で、実際に学習時間が少ないと感じたが、学校の目標として校外模試の方で偏差値50以上という目標があるのにもかかわらず、そこで勉強ができていないということが少し疑問である。学校で課す宿題などは、全体的に少ないのか？</li> </ul>
<p>(回答)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校で課す宿題は、結構多い方である。校長は、土曜日、日曜日を前にたくさんの課題を課すのもいいが、バランスよく課題を課してほしい、と話をしている。</li> <li>・市立高校に入学する生徒の何割かは、中学校時代、高校に入学するまでに何かしらの躰きを各教科で持ってきている生徒だと思われ、その中に学習習慣も含まれていると思う。学習習慣自体がついていないと、どうしても家庭での学習時間が少なくなり、やらなかったりするということも、かなりあるのでないかと思う。</li> <li>・学年部でも、毎日の学習時間を継続的に調べ、それを資料にまとめて分析して、学年主任又は係の人が平均の学習時間が少ないということ等を、年間を通じて継続して情報共有している。</li> <li>・「平均2時間以上40%以上」という成果目標につき、目標を下げてみたらどうかという意見をいただいたが、この目標は学年主任からすると、やはり高校生であるならばこれくらいの勉強はさせたいということで、今年も目標値は変えなかった。</li> <li>・1学期、2学期の平均では、2時間以上家庭学習をする割合としては、1年生は勉強の習慣がついていないためか約20%、2年生では50%超、3年生では約85%の生徒が2時間以上勉強しており、教員が勉強に向かわせている様子は分かる。</li> <li>・ビジネス探究科及びスポーツ探究科の学習時間数は、総合探究科の学習時間数と比較して、更に短時間となっているが、90分以上勉強している生徒は、どの学科でも多いので、90分から120分までの間が一つの課題と思う。</li> </ul>
<p>(質問・意見等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「魅力ある授業の実践と授業力向上」の成果目標「授業の内容が分かる生徒70%」についても、芳しくない結果となっており、昨年度よりも下がっている。この評価がD評価、C評価と自己分析しているというのはこの評価で仕方がない。しかし、今後の対策という点では、学習時間数や授業の内容が分かるという項目は、深刻に受け止めなくてはならない点ではないかと思う。</li> </ul>
<p>(質問・意見等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校行事・部活動に満足している生徒90%」という成果目標に対する学校の自己評価がB評価となっているが、学校行事に関しては、本日の報告を聞いても、</li> </ul>



	<p>魅力的なことをたくさんしていて、A評価ではないかなと思う。しかし、部活動と合わせて考えるとB評価になってしまうのは、とても残念である。学校行事と部活動とを成果目標自体を分けて、それぞれ評価することはできないか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動で、成果と課題の欄に「活動内容に満足がいかない生徒がいる」と記述があるが、これは具体的にはどんなことに満足していないのか？改善できないのか？</li> </ul>
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立高校は、6学級規模の高校とすれば多い、32の部活動があり、各部活動には、教員・生徒いずれも、いずれかの部活動に所属することとされている。部活動の中には毎日活動するわけではなく、週3日ぐらいの活動となっているものもあり、特に大きな大会などに合わせて活動する場合もある。このようなこともあって、今一つ満足できない生徒がいるのではないかと思う。学校としては、外部指導者を含め、生徒が満足できるようにできる限りの対応をしている。</li> </ul>
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動で活動したいが、毎日活動するわけではないような場合であったり、所属する生徒の人数も学年ごとに多い、少ないがあるなど、実際思うように活動が進められないような場合もあつたりするので、満足度としては80%になってしまうのではないか。部活動のシラバスを作成して、それを生徒に示し、本校では、教員・生徒いずれも、いずれかの部活動に所属する制度となっているので、各部活動の活動内容を理解して、いずれかの部活動に入っていくということになっている。</li> </ul>
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動は、全員いずれかの部活動に所属しなければならないということになっているので、部活動に対して消極的な生徒何らかの活動をさせるので、そうした生徒の満足度は低くなってしまいかも知れない。</li> </ul>
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと部活動で活動したいが、部活動ガイドラインなどの制約もあり、なかなか自分たちの思い活どおりに活動ができない、というような意見はなかったのか？</li> </ul>
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動ガイドラインを作成して、平日の1日の活動と土日の活動をガイドラインとして策定して今年から実施している。大会等が続く時期というのは、それに限らずということで、実際のところテスト期間、学校を閉鎖するお盆の期間、年末年始などにまとめて休みを取っている部活動が多く、特に運動部はそうした傾向がある。このため、部活動をやりたいけれどもできないという声はあまり聞いたことがない。</li> </ul>
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外探究研修から帰国した後に生徒に変化があつたり、英会話のボランティアとか、通訳活動をしている生徒の例があつたり紹介してほしい。</li> <li>・民間企業の損害保険会社などで高校生外交官プログラムという形の中でアメリカへと渡航したりするなど、県教委でモンゴルなどへの海外研修制度があつたと思うが、市立高校において、そうしたところに応募して挑戦をしているような生徒がいないのか教えてほしい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカのボストンのハーバード大学に行ったりした生徒の中で、志の高い人は</li> </ul>

<p>(質問・意見等)</p>	<p>海外に留学してしまう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス探究科の生徒で、個人面接で指導した生徒で、最初から海外に目が向いていて、家庭環境でスペイン語が話せる生徒だったもので、海外探究研修が終わった後に、日本国内で日本語がよく話せない子どもたちなどの橋渡しになっている生徒がいる。また、今年英語と日本語とでうまくコミュニケーションの中に入って行って、ボランティアをしている生徒がいて、その子は将来的にもそういう仕事をして、そうしたところで活躍して地域に貢献したいという気持ちを持っていた。</li> <li>・海外探究研修に行くことにより海外に目を向けて、ビジネス探究科の研修値は台湾だが、台湾に関係するさまざまなニュースや、話題の中で生徒が触れる機会、そういう意識をもってニュースとか、耳を傾けるような話も聞いている。年々海外に目が向けられてきていると感じている。</li> </ul>
<p>(回答)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA総会の出席率が、これだけ低い学校はないのではないかと思います。一般的にPTA総会というのは、体育館を会場にして大勢の保護者が出席してやっているイメージがあるが、市立高校は会場が体育館ではなく、視聴覚ホールでやっていて驚いた。PTA総会の開催時間、曜日を工夫しているようだが、まだ工夫できることがあるのではないかと。来年度に向けてまた、学校の方から何かいい提案があればと思う。保護者へのアンケート結果で、本校の保護者は学校に大変興味を持っているということがよく分かったが、それにもかかわらず、PTA総会の出席率が低くなっている。やはり、まだ何か工夫ができるのではないかと。</li> <li>・かつてPTAの組織で、地区会という会合があり、各地区に教員が訪問して懇談をしていたが、市立高校はそれをやめ、学年別学科別懇談会というものを始めた。学年別学科別懇談会は、出席率はかなり高い。このため、PTA総会に来るよりも、学年別学科別懇談会に来る方が保護者としては学校や子どものことがよく分かって、来やすいのかも知れない。</li> </ul>
<p>(質問・意見等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富士・富士宮地区の他校でのPTA総会、理事会について確認したが、PTA総会は、他校でも苦戦している。今年もかなり厳しい。本校に学年別学科別懇談会に来てもらい、担任の先生を中心にいろいろ細かい話をしているので、父兄の満足度も高く、学年別学科別懇談会については出席率も概ねよいので、こちらに重点を移し、保護者と学校が協力し合い、よりよい学校づくりをしていきたい。</li> <li>・「週3日以上午後8時以降に残留する職員の減少」という成果目標は、自分も公務員として働いているので、職場でも働き方改革について強く謳われていて、かなり時間外勤務については、厳しい感じがある。職場では上司が、各職員がどれくらい時間外勤務をしているかについて把握して、声掛けなどを行っているが、そういうことは県立高校の先生も同じではないのかと思う。割と上司の目が、無駄な時間はなくして、早く帰れるときは早く帰る、やるときはやる、という形がだんだんできてきているのかなという感じを受ける。富士市立高校で、同様に感じ</li> </ul>

<p>(回答)</p>	<p>て校長先生、教頭先生といった方の現状把握等はあるのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の職員の朝礼では必ず月曜日に、定時退庁推奨日なので定時に帰宅するよう呼び掛けている。運動部も月曜日は部活動が休みのことが多い。午後8時が一つの目安であるということは、折々に触れて話をしている。午後8時でも十分遅いが、「午後8時までに帰宅するようにしよう」と呼び掛けている。また、負担をなくし、仕事の平準化を、協力的にやっという職員に呼び掛けている。</li> <li>・富士市立高校は探究学習の準備がいろいろあり、他の高校と比較すると負担が多いと思われる。本校では、授業の間に学年会議、教科会議が、きちんとあり、更に探究委員会の会議を学年別に行ったり、管理職が入っての学年主任の会議、担任会を行ったりするなど、かなり細かく打ち合わせがある。</li> <li>・探究学習の準備として市役所、まちづくりセンターとの連携や、フィールドワークやグループワーク、簡単なポスターセッションなどの準備がある。もともと教科書がないので、これらの作業を手探りでやる必要があり、準備にかなり時間がかかる。</li> </ul>
<p>(質問・意見等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価については、学校の自己評価のとおりでよいと思う。市立高校の先生は、さまざまな創意工夫を凝らして授業を行っているな、ということがよく分った。</li> <li>・提案だが、資料の生徒アンケートの集計表があり、最高の評価4と時点の評価3の人数を合計人数で除して満足度を算出している。一方、それぞれの評価点の平均値を出した数値も掲載されている。この平均した数値は大変分かりにくく、満足度の%表示に統一した方が分かりやすい。例えば、質問番号5番の項目が82.7%、平均値は3.2となっている。質問番号10番の項目は、満足度83.8%で平均値が3.1となっており、数値が逆転してしまっているものがある。平均の数値と満足度の割合は、当然割合が違うので、逆転する可能性があるので、満足度で統一した方がよい。</li> </ul>
<p>(質問・意見等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日学校の経営報告書の自己評価に対する審査をやっているが、なかなかこういう場で学校が示した評価に対して、異議を申し立てるのは難しい。したがって、今日は自己評価の内容を説明だけとし、評価は委員が後日意見と併せて記入して学校に送付し、それを学校がまとめる形にした方がよい。</li> <li>・成果目標の達成状況がまだ1月の段階であり、まだ2月も始まったばかりというところで、評価を下すというのはいかがなものかなと思う。学年末になっていて、評価というものは次の年度にPDCAを回すというのであれば、それを活かしていかなければならないと思うので、評価はこの時期ではなく、忙しいかも知れないが、年度初めに実施した方がよいと思う。</li> <li>・評価のA B C Dの評価基準がよく分からない。どういう理由でC評価なのか、D評価なのか分からないので、評価基準をしっかり持っていた方が、分かりやすいのではないかと思う。</li> <li>・成果目標の値は、富士市立高校の理想であるとか、理念である。毎年A評価であ</li> </ul>

<p>(質問・意見等)</p>	<p>れば、その数値目標は、上げられるのであれば上げた方がいい。反対に、成果目標を下げると評価が上がり、また経年比較をすると、どこでその数値を変更したのかが分からなくなってしまう。極論を言えば評価自体はすべてD評価でもいい。その部分については課題として移ってくるので、その課題を学校でどのような形で共有して、それをどういうふうに改善していくのか、という方がアンケートを取ったり、評価をしったりする意義がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会で、この市立高校をコミュニティ・スクールにしていくということで、本校が地域に開かれた学校と感じる保護者とか、地域交流の実績がA評価となっていることは、とても喜ばしいことである。教育委員会として、このような評価を得られているということは、市立高校をコミュニティ・スクールにしたということが立証され、認められたということになると思う。是非自信を持っていただきたい。</li> <li>・コピー機の利用枚数などについては、例えば本日のこの資料は事前に送付されているので、そのまま各委員に持ってきてもらえば、資料に改めて閉じこまなくてもいい。そうしたことで削れるのではないかなと思う。</li> <li>・PTA総会と学年学科別懇談会というものを同じ日にやっているのかどうか、というのは分からないか？例えば、小中学校では、PTA総会をやって、その後懇談会を行っているので、保護者としては、PTA総会に参加してから学年懇談会に出席したいので、やはりPTA総会に参加する。このように抱き合わせで実施するというのも、一つの方法かなと思う。これは、義務教育でのやり方だが、参考にしていきたいと思う。</li> </ul>
<p>(質問・意見等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほどの自転車安全指導カードの成果目標に関する回答では、学校として不安があるとのことでした。3月いっぱいまでに目標値を超え、50件を超える可能性があるとの不安があるということなので、B評価のままで差し支えない。</li> </ul>
<p>(質問・意見等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導カードの内容だが、どのような指導をしているのか、内容などを教えてほしい。また、事故件数が記載されているが、交通事故を減らすための自転車指導カードであるので、重大な事故があるのならA評価にするのはおかしい話で、指導カードが少なくても、重大な事故を起こしてしまったら、それは指導が徹底されていないということになる。単に事故件数が34件だから評価を上げるというのではなくて、その内容・重大性を吟味すべきで、安易にA評価とするのはよくない。</li> <li>・学校運営協議会としては、学校の自己評価と協議会の評価は、同じで、特にこの場で修正することなく、学校の自己評価と同じ評価とする。</li> </ul>
<p>閉会</p>	